EX（絶滅）

コウチュウ目　ハムシ科

カテゴリー判定基準：③

旧レッドリストカテゴリー		
1991	2000	2007
E	CR+EN	EX

キイロネクイハムシ

Macroplea japana (Jacoby, 1885)

もっとも確認例の多い兵庫県宝塚市においても1950年以後の記録はない。最新のものは1962年福岡市香稚の1頭のみ。キタキイロネクイハムシや北米産同属種の生態から考えると、ほとんど池沼底にて生活している可能性もまったくなくはなく、深い湖沼から発見される可能性もある。

Most specimens were collected in Takarazuka City, Hyogo Prefecture, however no specimens have been recorded there since 1950. The most recent specimen collected was in Kashii, Fukuoka Prefecture in 1962.

基礎情報

■形態　体長3.8～4.6mm。黄褐色で脚は長く、とくに各爪は著しく細くて長い。前胸背には「小」字状の黒紋、上翅には黒色の点刻や隆条があり、端外角は針状に突出する。同属の近縁種である北海道のキタキイロネクイハムシとは小型、背面の黒色紋が異なることで区別できる。

■分布域　日本では本州（千葉県・神奈川県・滋賀県・兵庫県）と九州（福岡県）からの記録があるにすぎない。国外では中国とロシア沿海州から記録されている。

■生息環境　スゲ類（カヤツリグサ科）の生育する池沼。

■生活史　成虫は春早くに出現し、スゲ類の生育する池沼に踏み込んだところ、水面に浮いた個体が確認されたという情報がある。福岡市では10月に確認されていることから、新成虫は秋期に出現、そのまま成虫で越冬し、翌春に交尾・産卵活動を行うものと思われる。

絶滅に至った経緯とその要因

湿地や池沼など水環境の喪失・劣化（12）。

特記事項

もっとも確認例の多い兵庫県宝塚市においても1950年以後の記録はない。最新のものは1962年福岡市香稚の1頭のみ。第二次レッドリスト見直し以降の生息に関する情報はないが、キタキイロネクイハムシや北米産同属種の生態から考えると、ほとんど池沼底にて生活している可能性もまったくなくはなく、深い湖沼から発見される可能性も残されている。

参考文献

林成多，2005．日本産ネクイハムシ図鑑－全種の解説－．月刊むし，(408): 2-18.

林成多，2012．日本のネクイハムシ．月刊むし･昆虫図説シリーズ2，95pp．むし社，東京.

久保田正秀，1987．キイロネクイハムシは絶滅したのか．日本の生物，1(3): 49-52.

執筆者：高桑正敏（神奈川県立生命の星･地球博物館　名誉館員）